

■チームOGからのメッセージ（続き）

進路だより 24 号で掲載した S さんのメッセージの続編です。

2. 大学生生活

サークルも何個か入っていますが、一番ウェイトを占めているのは吹奏楽団で、高校から続けているクラリネットを担当しています。インカレといって他大学から来ている人も多いので、交友関係も広がります。また、農ゼミという農学部っぽいサークルがいくつかあり、例えば養蜂サークルや MOW ゼミ(牛の世話などをします)、ミニホースの会など個性的なもの勢揃いです。私は耕地の会という農ゼミに入っていて、学外の畑で野菜の播種から収穫まで自分たちで行います。夏は収穫したスイカでスイカ割りをしたり、冬はサツマイモで芋きんづばをつくって学祭で販売したりします。農学部ならではの経験ができ、とても充実しています。

また、空き時間に友達とカフェに行ったり、一緒に夜ご飯を作ってお泊まり会をしたり、学科で花火大会をしたりと、楽しいことがたくさんできます！夏休みもとても長いので、旅行に行ったりサークルの合宿に参加したりバイトを頑張ったりといろいろなことができます。

3. この時期の受験勉強について

去年のこの時期を思い返すと、大学別模試に向けて二次の勉強をガンガンやっていた記憶と、「自分の努力次第で憧れの志望校に合格できるかもしれないのかふふふ、よし頑張ろう」と勝手にニヤニヤしていた記憶があります。この時期の勉強に関しては、模試の判定に振り回されないこと、添削をうまく活用すること、理科にびしびし取り組むことなどを意識していました。

私は英語が得意だったので、英語はとにかく志望校の過去問を、一日一大問（要約、英作文など）ときめて添削していただいていたと思います。結果的に 11 月の模試では英語の成績が夏に比べ伸びたので効果的だったと思います。数学は、苦手だからこそできる問題を見極めてきちんと完了させられるようになることを目指して、過去問の添削指導を受けていました。そして並行して、解き慣れた問題集「スタンダード」「オリジナルスタンダード」を繰り返し解いて苦手意識をなくそうとしていました。

次に理科についてですが、演習量を確保するために重問を解きまくっていました。理科はやればやるだけ成果が出る科目だと思うので、妥協せずガツガツ自分の愛用問題集を何度も繰り返すと良いと思います。

地理の共テ模試で点がとれず悩んでいる人も多いと思いますが、地理は解説を読むのがとても有効でした。新しい問題集には手を出さず、ウィニングコンパスの知識は完璧にした上で演習問題を繰り返し解き、解説をかなり読み込んでいました。解くときに、解説に載っている補助線をまねして引いてみたり、ポイントを丸で囲ってみたりしているうちに、だんだんと解けるようになりました。私はあまり地理には時間を割けなかったので、電車の中でよく取り組んでいました。

模試の判定には、「気にしないなんて無理！！！」という人もいると思いますが、そんなときは自分に言い聞かせましょう。本番の合否を決めるのは、模試を受けたときの自分ではないですよ。本番までにやりたいと思っていること、やるべきことが全部終わっているわけでもないと思います。つらいときはつらいついて言って良いし、焦って頑張れないときは頑張れないって周りにはきだしても良いと思います。そうしながらでも、自分を信じて目の前のことをコツコツひとつひとつ積み上げていくのが一番大事で、そうすれば着実に志望校に近づいていくと思います。私は結果的に前期では、数点差で不合格となってしまいました。結局、合格するかどうかは、数点を争う戦いなんです、本当に。焦る必要は全くないけど、今の努力がその数点を埋めているのだと信じて、自分を信じて進んでいってほしいです。

また、メンタルを保つコツとしては、毎日できなかったことを振り返るのではなく、今日はこれができるようになった、今日はこれをやり終わった、と「できた」を振り返ると良いのではないのでしょうか。この時期は周り比べて、あれもできてないこれもできてないと混乱しがちですが、わたしはそれを防ぐために、いつもベクトルを自分に向けて、できるようになったことを数えて自己肯定感をあげていました。

最後はとても主観的な内容になってしまいすみません。うまく言葉にできないけど、最後に伝えたいのは、納得できる未来になるかどうかは自分次第だということです。今は終わりのないトンネルの中にいるような気分かもしれませんが、頑張った先には必ずゴールがあります。私も今大学に通ってみて、あのとき受験勉強頑張ってよかったなと心から感じますし、全力で努力したからこそ農工大でも頑張れて楽しめているんだろうなと思います。皆さんの努力が実を結ぶよう、心から応援しています。